

あらふねやま 荒船山の赤玉石

下仁田で見つかる宝石



赤玉石は^{へきぎよく}碧玉の一種で、^{てつせきえい}鉄石英ともいわれる宝石です。下仁田町^{どうたいらがわ}道平川ダム、荒船山の周辺に産出します。

碧玉には、赤色、黄色、緑色のものなどがあります。

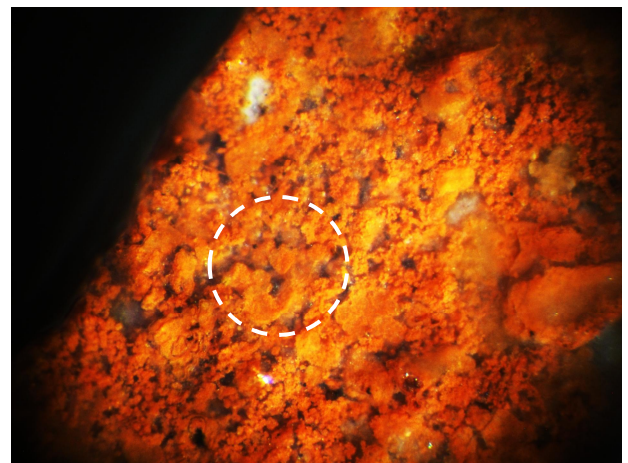
赤玉石やメノウ(^{ぎよくすい}玉髓)は、地下からの熱水が上がってきて、岩の割れ目などに細脈となって染み込んでかたまつたもの(右写真)です。時には丸い玉状になることもあり、赤玉石という^{すいせき}名になりました。水石などで重宝されています。



道平川上流の赤玉石
岩の割れ目に染み込んだ様子

赤チャートととの見分け方

赤玉石を顕微鏡で見ると小さな丸い魚卵状の組織がみられます。熱水の中に溶けている石英や酸化鉄が熱水中で、ゲル状に固まり始めた時の形を残したものと考えられます。この組織があることで、赤茶色のチャートと見分けることができます。



実体顕微鏡写真(100×)

赤色や緑色の碧玉は、弥生時代には^{くだたま}管玉の材料として利用されていました。新潟県佐渡市や石川県小松市のものが有名です。